

さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画

平成 27 年 12 月 28 日策定

沖縄県久米島

策定主体：久米島町

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】

(1) 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産 (策定時)	294	104	720	1,118	6.0	3.0	3.8	4.3	17,762	30,99	27,210	48,071
平成 22 年産 (目標)	230	130	675	1,035	6.7	4.6	5.0	5.3	15,410	5,980	33,750	55,140
(実績)	176	184	709	1,069	7.9	5.3	5.4	5.8	13,870	9,779	38,148	61,797
(達成度 (%))	(76.5)	(141.5)	(105.0)	(103.3)	(117.9)	(115.2)	(108.0)	(109.4)	(90.0)	(163.5)	(113.0)	(112.1)
平成 27 年産 (目標)	230	130	710	1,070	6.7	4.8	5.4	5.6	15,410	6,240	38,340	59,990
平成 26 年産 (実績)	258	124	570	953	6.3	4.0	4.4	4.9	16,189	4,963	25,124	46,276
(達成度 (%))	(112.2)	(95.4)	(80.3)	(89.1)	(94.0)	(83.3)	(81.5)	(87.5)	(105.1)	(79.5)	(65.5)	(77.1)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)	16	—	3	7
平成 22 年度 (目標)	26	—	3	8
(実績)	27	—	—	8
(達成度 (%))	(103.8)	—	—	(100.0)
平成 27 年度 (目標)	39	—	3	9
平成 26 年度 (実績)	26	—	3	9
(達成度 (%))	(66.7)	—	(100.0)	(100.0)

(2) 評価

① 前計画で挙げた課題

- ・ 適期作業管理の不徹底
- ・ 土壌害虫被害による減収
- ・ 生産農家の高齢化および担い手不足
- ・ かんがい施設および防風林の整備
- ・ 機械化の推進
- ・ 収穫面積の確保
- ・ さとうきび共済への加入促進

② 課題に対する取組内容

- ・ 土づくりの推進、適期植付や早期株出管理作業及び病虫害防除対策等の徹底
- ・ 地域の品種構成の適正化と優良苗生産システムの確立
- ・ 認定農業者および生産法人の育成
- ・ 受委託組織による機械化一貫作業体系を確立
- ・ 水資源の確保や防風・防潮林等の整備
- ・ 遊休地の解消
- ・ さとうきび共済への加入促進

③ 解決した課題

- ・ 水資源の確保
- ・ 品種の偏りの改善 (F177 への偏り)

④ 依然として残っている課題

- ・ 生産量および収穫面積の維持
- ・ 生産農家の高齢化対策
- ・ 干ばつ時期によるかん水対策の整備
- ・ 病虫害 (イネヨトウ等) の防除
- ・ 機械化の推進
- ・ 農業機械のオペレータ不足の解消

⑤ 新たに生じた課題

- ・ イネヨトウ被害の深刻化

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	258	124	570	953	6.3	4.0	4.4	4.9	16,189	4,963	25,124	46,276
平成 28 年産 (目標)	209	200	567	976	6.9	4.6	4.9	5.3	14,421	9,200	27,783	51,404
平成 29 年産 (目標)	250	148	610	1,008	6.9	4.4	4.8	5.3	17,250	6,512	29,280	53,042
平成 30 年産 (目標)	250	155	628	1,033	7.0	4.4	4.9	5.3	17,500	6,820	30,772	55,092
平成 31 年産 (目標)	250	158	637	1,045	7.0	4.4	4.9	5.3	17,500	6,952	31,213	55,665
平成 32 年産 (目標)	250	161	647	1,058	7.2	4.5	5.0	5.4	18,000	7,245	32,350	57,595
平成 37 年産 (目標)	250	180	740	1,170	7.2	5.0	5.6	5.8	18,000	9,000	41,400	68,400

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	16	—	3	3
平成 32 年度 (目標)	21	—	5	5
平成 37 年度 (目標)	26	—	7	7

※大規模生産農家とは生産法人とする

(3) 目標達成に向けた取組方向

- ・ 遊休農地の解消、農地の流動化
- ・ 生産農家の高齢化に伴う担い手の育成
- ・ 早期高糖性品種の普及による適正な品種構成比
- ・ イネヨトウ等、病虫害防除の実施を徹底
- ・ 機械化の推進

1. 目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考
<p>①農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化および担い手不足 ・生産法人間での受託作業調整システムの確立 ・国事業及び久米島製糖事業を活用し遊休地を解消 ・収穫労働力を補うため手刈り班の設置 ・梢頭部刈り取り班の設置（久米島製糖）による種苗対策 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者数： 16名 ・生産法人数： 9法人 ・さとうきび収穫面積： 953ha <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業受託体制の確立 ・高齢化対策 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地は農地中間管理事業を活用し生産法人等へ農地集積を図る ・今後育成すべき農業経営を中心に認定農業者へ誘導 ・9法人(平成27年度)の経営の安定、強化の支援 ・法人間で受託作業を調整するシステム構築を図る。 ・一定の要件を満たす認定農業者や生産組織、受託組織などを「担い手」として位置づけ、組織化の促進を図る。 ・既存の受託組織の充実 ・認定農業者の育成 ・受託体制の強化 単収向上による生産コストの低減 ・自家苗栽培の指導 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託体制の検討・担い手の育成 ・収穫面積の増加 <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者（現状16名）を毎年1名ずつ増やす。 ・さとうきび収穫面積を5年で、約1,058haまで増やす。 	
<p>②農業共済制度への加入促進</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全相殺方式は、被害と認定されない場合がある。 ・高齢化、零細経営のため、共済加入への意識が低い。 ・共済組合、JA、久米島製糖、久米島町、各字区長による戸別訪問での声かけ ・町単独事業による農家掛け金の補助。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとうきび増産プロジェクト会議構成員と連携して制度普及、加入推進に努める。 ・町の掛金助成を活用して加入を推進する。 ・共済加入率が低いいため、引き続き加入を推進する。 ・支援事業等を活用し、OCR調査時等に加入推進説明を行い、加入を推進する。 	

【現状】

<畑作物共済加入状況>

	戸数	面積(ha)
有資格者	843	848
加入戸数	325	485.7
加入率 (%)	38.6	57.3

※H26年度

【課題】

- ・小規模農家、兼業農家が多く、共済への関心が低く、加入が低迷している。

【目標】

<畑作物共済加入の目標>

項目	H28年	H29年	H30年	H31年	H32年
	28年産	29年産	30年産	31年産	32年産
加入戸数(戸)	325	340	360	380	400
加入面積(ha)	585.6	635.0	681.8	710.6	740.6
面積引受率(%)	60	63	66	68	70

【計画】

- ・OCR調査時に、関係機関で連携して制度の理解を深めるための説明を行い、加入率向上に取り組む。
- ・農業共済制度普及推進員を活用し、戸別訪問による加入推進に取り組む。

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																																																									
①作型の選択	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春植と株出面積を増やすことを目標に取り組んだ。 <p>【現状】</p> <p><作型割合の推移></p> <p style="text-align: right;">単位：%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H18</td><td>32.6</td><td>14.2</td><td>53.2</td></tr> <tr><td>H19</td><td>25.2</td><td>11.4</td><td>63.4</td></tr> <tr><td>H20</td><td>21.4</td><td>10.5</td><td>68.0</td></tr> <tr><td>H21</td><td>22.3</td><td>17.2</td><td>60.5</td></tr> <tr><td>H22</td><td>16.4</td><td>17.2</td><td>66.3</td></tr> <tr><td>H23</td><td>14.5</td><td>18.2</td><td>67.2</td></tr> <tr><td>H24</td><td>20.2</td><td>19.5</td><td>60.2</td></tr> <tr><td>H25</td><td>21.5</td><td>12.9</td><td>65.5</td></tr> <tr><td>H26</td><td>27.1</td><td>13.0</td><td>59.8</td></tr> </tbody> </table>		夏植	春植	株出	H18	32.6	14.2	53.2	H19	25.2	11.4	63.4	H20	21.4	10.5	68.0	H21	22.3	17.2	60.5	H22	16.4	17.2	66.3	H23	14.5	18.2	67.2	H24	20.2	19.5	60.2	H25	21.5	12.9	65.5	H26	27.1	13.0	59.8	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春植、株出面積の増加を目標とする。 ・株出管理講習会や、株出管理機の実演会を開催。 ・計画的な植え替え更新の実施。 <p>【目標】</p> <p><作型割合の目標値></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年産(現状)</td> <td>258</td> <td>124</td> <td>570</td> <td>953</td> </tr> <tr> <td>(割合)</td> <td>(27%)</td> <td>(13%)</td> <td>(60%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成28年産(目標)</td> <td>250</td> <td>135</td> <td>575</td> <td>960</td> </tr> <tr> <td>平成29年産(目標)</td> <td>250</td> <td>142</td> <td>592</td> <td>984</td> </tr> <tr> <td>平成30年産(目標)</td> <td>250</td> <td>148</td> <td>610</td> <td>1008</td> </tr> <tr> <td>平成31年産(目標)</td> <td>250</td> <td>155</td> <td>628</td> <td>1033</td> </tr> <tr> <td>平成32年産(目標)</td> <td>250</td> <td>161</td> <td>647</td> <td>1058</td> </tr> <tr> <td>(割合)</td> <td>(24%)</td> <td>(15%)</td> <td>(61%)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		面積 (ha)				夏植	春植	株出	全体	平成26年産(現状)	258	124	570	953	(割合)	(27%)	(13%)	(60%)		平成28年産(目標)	250	135	575	960	平成29年産(目標)	250	142	592	984	平成30年産(目標)	250	148	610	1008	平成31年産(目標)	250	155	628	1033	平成32年産(目標)	250	161	647	1058	(割合)	(24%)	(15%)	(61%)		
	夏植	春植	株出																																																																																									
H18	32.6	14.2	53.2																																																																																									
H19	25.2	11.4	63.4																																																																																									
H20	21.4	10.5	68.0																																																																																									
H21	22.3	17.2	60.5																																																																																									
H22	16.4	17.2	66.3																																																																																									
H23	14.5	18.2	67.2																																																																																									
H24	20.2	19.5	60.2																																																																																									
H25	21.5	12.9	65.5																																																																																									
H26	27.1	13.0	59.8																																																																																									
	面積 (ha)																																																																																											
	夏植	春植	株出	全体																																																																																								
平成26年産(現状)	258	124	570	953																																																																																								
(割合)	(27%)	(13%)	(60%)																																																																																									
平成28年産(目標)	250	135	575	960																																																																																								
平成29年産(目標)	250	142	592	984																																																																																								
平成30年産(目標)	250	148	610	1008																																																																																								
平成31年産(目標)	250	155	628	1033																																																																																								
平成32年産(目標)	250	161	647	1058																																																																																								
(割合)	(24%)	(15%)	(61%)																																																																																									

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業機械化に伴い、欠株増加や株出管理作業の遅れから、単収低下が見られる。 	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 植え付け作業の受委託体制の整備。 適期株出管理の実施。 	
②気象災害に強い生産基盤の整備	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水資源の確保が困難で、干ばつや台風の被害を受けやすいかん水事業による干ばつ対策の助成 防風林による被害軽減効果についてPRし、防風防潮林の整備 <p>【現状】</p> <p><農業基盤整備の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 水源整備率： 58.4% 畑地灌漑整備率： 45.7% ほ場整備率： 84.2% <p>※H26年度実績見込み</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> かん水用資材として、タンク等整備を進めてきたが、水源や散布に係る経費が大きく、活用が少ない。 生産者が農薬散布や散水に利用する取水施設の設置 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 干ばつ時等に散水等が取水できる箇所の確保を図る。 スプリンクラーの有効利用 展示ほの設置によるかん水の推進。 土地基盤整備率の向上 タンク等の活用による干ばつ対策の技術確立。 防風林による被害軽減効果についてPRし、防風防潮林の整備を継続して行う。 <p>【目標】</p> <p><農業基盤整備の目標（H32年度）></p> <ul style="list-style-type: none"> 水源整備率： 58.4% 畑地灌漑整備率： 56.6% ほ場整備率： 84.2% 防風施設整備：3,400m <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者が農薬散布や散水に利用する取水施設の設置 機械化にあったほ場整備の推進 	
③機械化一貫体系の確立	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> オペレータ不足による低稼働率 オペレータによる技術差 生産法人にハーベスタを補助事業で導入 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ハーベスタ収穫－株出管理作業体系を確立 オペレータ講習会開催による技術向上 農業機械の効率的利用を促進、調整システムの確立 ハーベスタ等の導入を行い、農作業の省力化および面積の拡大を図る。 株出管理機の利用促進により、収穫面積の6割を占める株出の単収の向上を図る オペレータの育成 	

【現状】

- ・ハーベスタの地域における絶対数量（台数）少なく、機械収穫率が低い状況である。
- ・ハーベスタ収穫後の管理が十分でないため、単収が減少傾向にあり、株出管理機等の整備が必要である。
- ・オペレータ不足も課題であるが、ハーベスタに限れば、稼働率は高く、機械が足りない状況である。

	H26
ハーベスタ台数（小型：台）	20
機械収穫率（面積：%）	41.2

【課題】

- ・面積に対して、機械台数が少なく耐用年数がきれているハーベスタもあるため事業の導入を継続し推進する。
- ・受託者の育成
- ・ハーベスタオペレータと株出管理等トラクタオペレータが同一のため、株出管理作業が遅れる地域がある。

【目標】

- ・農業機械の導入（平成32年度までの導入目標）
- ・機械導入にあわせたオペレータの確保、育成

	H28	H29	H30	H31	H32
機械収穫率（面積：%）	45.0	47.8	50.5	53.1	55.5

【計画】

- ・生産組合現地検討会等の開催。
- ・オペレータ研修会の開催。

<機械導入計画>

	H28	H29	H30	H31	H32
ハーベスタ	2	2	2	2	2
株出管理機	1	1	1	1	1
プランター	1	1	1	1	1

④地力の増進

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・堆肥センターの活用による安定的な堆肥供給・散布体制の構築、計画的な土づくりの推進による地力の増進
- ・堆肥、土壌改良材投入量が少ない状況にある。
- ・緑肥種子及び堆肥の一部助成を継続的に実施。(町単独事業)

【現状】

- ・堆肥、土壌改良剤の投入を随時実施。
- ・緑肥栽培を、クロタラリアを中心に約24ha実施した。
- ・事業により土壌分析を実施。(H23年度実績)

【取組の方向】

- ・堆肥センターを核にして、安定的な堆肥供給及び散布体制を構築し、計画的な土づくり、地力の向上を図る。
- ・緑肥作物栽培の普及・啓蒙活動を強化。
- ・土壌診断に基づき、緑肥・堆肥の利用を促進し単収の増加を図る
- ・堆肥や緑肥に対する助成。
- ・石粉等の投入による酸度矯正

【目標】

<堆肥・緑肥投入目標>

項目	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	28年産	29年産	30年産	31年産	32年産
堆肥(ha)	20	25	30	35	40
緑肥(ha)	25	28	32	37	45

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑肥・堆肥の助成が、農家に十分活用されていない。 ・ 簡易な土づくり対策として、緑肥栽培は重要であるが、農家には十分活用されていない。 	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堆肥投入、緑肥に対する助成の拡大。 ・ 堆肥投入、緑肥栽培効果に対する展示ほの設置。 ・ 土壌分析等の推進。 	
--	---	---	--

(3) 技術対策

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考
<p>①栽培技術の普及等</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫期間内の早期株出管理や春植作業の遅れ ・ 苗生産管理作業が不十分 ・ 株出管理の早期管理を推進 ・ 施肥、除草剤の基本的栽培技術の励行 ・ 一芽苗等を利用した補植技術の普及 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手不足、高齢化から、株出管理が遅れる傾向にある。 ・ かん水タンク等を導入し、適期かん水の実施を呼びかけている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株出管理の早期管理を推進する。 ・ 施肥、除草剤の基本的栽培技術の励行。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫期間内の早期株出管理、適期春植を行い、台風、干ばつ時期までには成長させるよう徹底管理を行い、普及、推進のための普及啓発を図る。 ・ 優良苗生産システムの確立 ・ チラシ配布、講習会開催・個別指導等による適期管理を推進 ・ オペレータの技術向上 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株出ほ場における、株出管理作業の実施拡大。 ・ かん水実施の拡大。 ・ 農作業機械オペレータの育成。 <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株出管理実演会の開催。 ・ 株出管理効果の実証展示ほの設置。 ・ かん水効果の実証展示ほの設置。 ・ オペレータの育成 	

②優良品種の
選択・普及

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・風折の多い F177 に品種構成が偏っている。
- ・無病健全な優良種苗の導入普及
- ・早期高糖品種の導入

【現状】

< 品種別収穫面積の推移（栽培比率：％） >

	Ni 17	F 177	Ni 9	Ni 15	NiTn 10	NiTn 20	Ni 21	Ni 28	Ni 22	Ni 27	NiH 25
H18	35.8	23.6	14.6	13.0	3.4						
H22	18.8	2.6	0.8	1.5	0.2	2.3	65.2				
H26	2.5	0.6		0.2		1.1	65.9	13.2	5.7	4.3	2.6

【課題】

- ・品種の構成の適正化
- ・F177 への偏りは改善できたが、その後急激に増加した Ni21 への偏りによる種苗不足の解消も必要である。

【取組の方向】

- ・台風、干ばつに強い品種の普及推進
- ・適正な品種構成の確立（Ni21 への偏りを改善）
- ・育種委員会等連携し、優良品種の導入を図る。
- ・優良品種、新品種の模索・検討を継続的に行う。
- ・農家個人による自家苗の確保を推進する。
- ・早期高糖品種の導入、普及。

【目標】

< 品種別収穫面積（栽培比率：％） >

	Ni21	Ni22	Ni27	97-14
H26	65.8	5.7	4.3	—
H29	55	10	10	3
H30	45	15	15	5
H31	40	20	20	8
H32	30	30	30	10

【計画】

- ・品種比較展示ほの設置。
- ・優良種苗の展示ほの設置。

③病害虫対策

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・誘殺防除地域外でアオドウガネが増加している。
- ・ハリガネムシが発生し、不萌芽の要因となっている。
- ・アオドウガネ成虫の誘殺灯による防除
- ・さとうきび病害虫防除に対する農薬代補助
- ・夏植推進大会にて病害虫防除の講演会を実施

【取組の方向】

- ・基本的な防除作業の励行
- ・アオドウガネ誘殺灯の設置を継続
- ・同防除及び農薬の助成
- ・病害虫防除の推進

【現状】

- ・イネヨトウ交信かく乱による一斉防除を2回実施。
- ・町単独事業による、病虫害防除の実施（農薬の助成等）

＜イネヨトウ交信かく乱事業実施状況＞

年度	実施面積	備考
H25年度	600ha	防除普及事業
H25年度	400ha	さとうきび増産基金
H26年度	900ha	さとうきび増産基金

【課題】

- ・イネヨトウの発生密度が高い地域による被害の多発。

【目標】

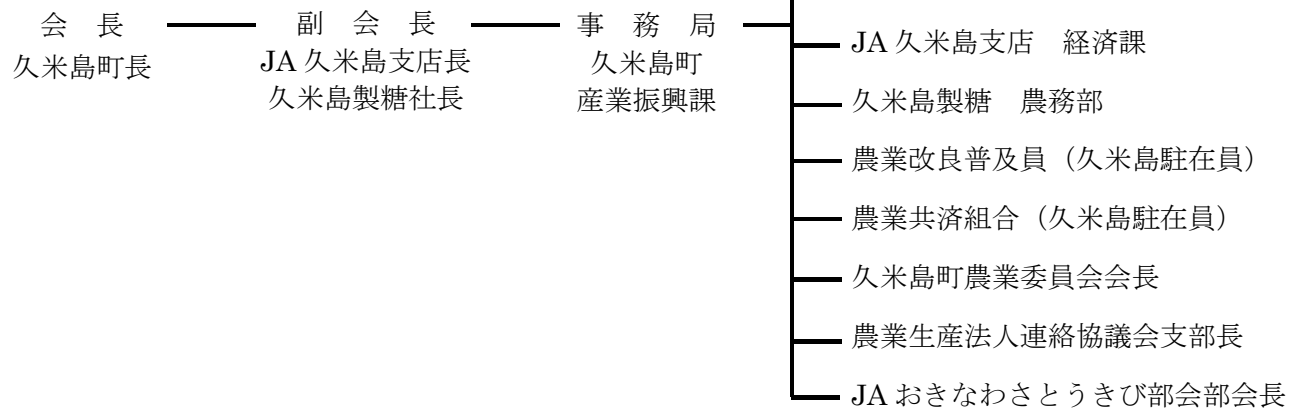
- ・病虫害の早期防除を推進し、減収を最低限に抑える。

【計画】

- ・町単独事業による防除薬剤費の助成の継続
- ・講演会等で、防除の必要性を周知する。

2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について

①さとうきび増産に向けた取組推進体制



②関係者の役割分担

参画機関	担うべき役割	具体的取組方策		
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策
久米島町役場	<ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクト会議の事務全般 ② 国、県事業導入及び予算等 ③ 国、県との調整等 ④ さとうきび増産体制に係る事項 ⑤ その他増産に関する事項全般 	<ul style="list-style-type: none"> ① 受託組織の育成 ② 共済加入の促進 ③ 農業経営等の調査 ④ 認定農業者の認定 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農業機械の導入 ④ 防風防潮林の整備 ⑤ 緑肥栽培の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 優良種苗の増殖普及 ② 病虫害防除対策 ③ 展示ほの設置 ④ 農家懇談会の開催
J A久米島支店	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産性向上の推進に関する事項 ② 生産資材に関する事項 ③ 農家への普及啓発活動等 ④ 実証展示ほに関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産組織の育成 ② 共済加入の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業導入計画 ② 生産資材等提供 	<ul style="list-style-type: none"> ① 展示ほ調査の協力 ② 病虫害防除の推進 ③ 農家懇談会の開催
久米島製糖	<ul style="list-style-type: none"> ① 品種導入等の技術に関する事項 ② ケーキ、バガスの供給等 ③ 実証展示ほの設置協力 	<ul style="list-style-type: none"> ① 受託組織等への協力 ② 農業経営等の調査 ③ 共済加入の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業効果の検証指導 ② ケーキ、バガスの供給 	<ul style="list-style-type: none"> ① 新品種の普及拡大 ② 実証展示ほの設置 ③ 農家懇談会の開催
県南部農業改良普及センター（久米島駐在）	<ul style="list-style-type: none"> ① 技術講習会等の開催に関する事項 ② 事業導入に関する事項 ③ 生産性に関する事項 ④ 県行政との調整に関する事項 ⑤ その他生産組織に関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> ① 受託組織の指導 ② 農業経営等の調査 ③ 共済加入促進指導 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業導入への協力 ② 事業効果の検証指導 	<ul style="list-style-type: none"> ① 品種構成の指導 ② 技術講習・実演会 ③ 土壌調査 ④ 栽培指針の策定 ⑤ 展示ほの設置、指導 ⑥ 農家懇談会の開催
久米島町農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 農地の流動化に関する事項 ② 農家への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ① 農地の流動化促進 ② 耕作放棄地の調査 		

	生産農家・生産法人	① 技術講習会等の開催に関する事項 ② 生産技術向上に関する事項 ③ 実証展示ほに関する事項	① 生産組織への加入 ② 共済加入	① 増産体制への協力	① 技術検討会呼びかけ ② 実証展示ほの設置協力
	沖縄県農業共済組合 (中南部支所)	① 共済加入率の促進に係る事項 ② 病虫害被害耕地への対応のPR	① 加入促進説明会・戸別訪問の実施		
③毎年度の検証方法・体制	久米島地区さとうきび増産プロジェクト会議開催。				

(参考情報)

1. 島の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

- ・ 久米島は、那覇市の西約 100km の東シナ海に位置する周囲約 48km の島である。
- ・ 面積は 63.5 k m²でそのうち畑が 25.5 k m²となっている。
- ・ 久米島は霧島火山帯に属し、大半が安山岩土壌で、その他、珊瑚石灰岩土壌、沖積土壌、泥灰岩土壌等の土壌が複雑に分布している。
- ・ 気象は、亜熱帯性気候で平均気温 22.9℃、年間降水量 2111.8mm (平年値) と温暖多湿の気象条件下にあるが、夏季には干ばつや台風の接近による災害の多い地理的、自然条件下にある。
- ・ 産業別就業構造は、第 1 次産業が 28%、第 2 次産業が 17%、第 3 次産業 55%となっている。
- ・ 農業産出額は、204 千万円 (H26 産業の概況) で、内訳は、さとうきび 46% (95 千万円)、肉用牛 30% (61 千万円)、花き 19% (40 千万円)、野菜 4% (千万円)となっており、さとうきびが基幹作物となっている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状

【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】

(1) 作物別作付面積の動向

(単位：ha)

	耕地面積	さとうきび	かんしょ	野菜	果樹	飼料作物	その他
H17	2,399	946	—	41	—	—	—
H18	2,399	1,044	—	39	—	—	—
H19	2,399	1,031	—	28	—	—	—
H20	1,908	935	—	34	—	—	—
H21	1,908	1,054	—	28	—	—	—
H22	1,908	1,068	—	24	—	—	—
H23	1,893	980	—	41	—	—	—
H24	1,893	949	—	42	—	—	—
H25	1,750	850	—	34	—	—	—
H26	1,717	952	—	—	—	—	—

※H19年以後、品目によっては市町村統計が公表されていないため数値が把握されていない。

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t/ha)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	245	115	586	946	60.061	40.780	49.174	50.965	14,691	4,706	28,821	48,218	14.10
H18	341	149	555	1,044	62.350	35.800	41.199	47.332	21,235	5,316	22,882	49,433	14.30
H19	260	118	653	1,031	73.305	46.150	45.688	52.704	19,062	5,443	29,851	54,357	13.20
H20	201	98	637	936	93.775	72.834	64.470	71.631	18,808	7,165	41,047	67,020	14.20
H21	235	181	638	1,054	88.444	57.907	58.780	65.242	20,781	10,500	37,489	68,770	14.70
H22	176	184	709	1,069	78.961	53.067	53.825	57.826	13,870	9,779	38,148	61,797	14.10
H23	143	179	659	981	46.477	40.580	32.486	35.998	6,628	7,260	21,412	35,299	14.60
H24	192	185	572	949	57.081	33.379	38.967	41.541	10,965	6,187	22,284	39,436	13.50
H25	183	110	557	850	57.910	43.300	47.230	49.020	10,575	4,779	26,313	41,667	14.80
H26	258	124	570	953	62.715	39.922	44.064	48.578	16,189	4,963	25,124	46,276	13.80

【年齢階層別農家戸数】

(単位：人)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H19	6	28	121	230	277	662
H20	5	19	109	231	306	670
H21	7	24	114	251	347	743
H22	6	29	118	236	378	767
H23	5	27	98	251	417	798
H24	8	39	102	260	476	885
H25	7	35	88	236	492	858
H26	8	32	71	230	495	836

【経営（収穫）規模別農家戸数】

(単位：戸)

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H17	701	309	12	9	1,031
H18	692	333	18	9	1,052
H19	635	334	13	11	993
H20	495	383	39	16	933
H21	558	364	16	14	952
H22	534	360	33	15	942
H23	556	343	11	14	924
H24	470	382	38	20	910
H25	550	280	12	9	851
H26	452	350	38	12	852

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	60.27	84	11.77	5.19
H18	61.79	84	12.19	7.61
H19	67.95	82	11.32	7.37
H20	83.78	93	12.00	6.17
H21	85.96	90	12.19	7.18
H22	77.25	92	11.82	7.95
H23	44.12	79	12.31	11.06
H24	49.30	71	11.37	6.41
H25	52.08	69	12.14	6.77
H26	57.85	71	11.52	7.53